

みずくらいど

校長 加藤雅弘

自分が得をするのとはちがう「うれしさ」

地域の方々が支えてくださったおかげで、皿沼小は40周年をむかえることができました。これから私は、地域のお年寄りを支えたり、町をきれいにしたりするなど、皿沼や足立区に貢献できる人になっていきたいです。

これは6年生の代表児童が、13日の記念式典において、児童代表として述べた言葉の一部です。学校要覧や学校経営計画などにも記載しましたように、周年行事の目的を「過去を知り、未来を考える」及び「学校や地域に対する愛情の醸成」と位置付け、教育活動を展開してきました。その成果を象徴する言葉に、この直後に祝辞を頂戴した近藤区長も感嘆されたご様子でした（詳細は12月号の学校だよりでも触れます）。

この言葉の中でも「貢献」が重要な概念ですが、低学年には難解でしたので、月曜日のリモート朝会で、再度その児童に登場してもらい、インタビュー形式でやさしい言葉に言い換えながら、どんなことか解説してもらいました。

実は、朝会ではもう一つ伝えたかった6年生の行動がありました。それは、式典終了後、数少ない機会である「集合写真」を取り終えた児童たちが、担任からの指示もない中で、自ら進んでパイプ椅子の片付けを始めたのです。私は現場を見ていませんでしたので、植松さんに、その時の状況や心境を語ってもらいました。すると、撮り終えた後、主事さんが一人で片付けているのを目にして、自然と友達と声をかけあって行動に移したとのことでした。正に「有言実行」です。

さらにうれしい情報が、同時に私に届いてきました。それは2年1組担任の週学習計画の中に記載されていた「雨の朝、外で遊べない代わりに全員の靴を揃えている児童がいる」というものです。直接話が聞きたかったので本人に校長室に来てもらいました。行動の動機は「2年生全員の靴がそろっていれば、1年生のお手本になるから」というものでした。また、心境は「すっきりして、うれしい気持ち」とのことでした。

私には、2人の根底に共通の価値観や本能があると思います。それは「誰かの役に立つうれしさ」で、人が生まれながらにもっている欲求の一つでもあります。これは、自分だけが得をするうれしさとは次元が異なります（この辺りも学校だよりで触れる予定です）。このような姿が複数見られたことを大変うれしく思います。今後、多くの児童が、この「誰かの役に立つ、集団に貢献するうれしさ」を感じてほしいと願っています。

校長室通信『みずくらいど』は12月より家庭数での配布といたします。当初、高学年児童にも読んでもらいたいとの願いから児童数配布としてきましたが、半年を過ぎ、皿沼小が目指す新しい教育の姿が浸透してきたこと、読んでいる児童の数を調査(4年生以上)した結果、50名程度だったことなどを考慮してのことです。

今後、自分で読みたい児童に対しては、校長室前に数部の予備をおき、自由に持ち帰れるようにして参ります。複数のお子さんがいらっしゃるご家庭には、これまでお手数をおかけしました。ご理解、ご協力、ありがとうございました。